

## ディスカバー農山漁村の宝地方サミット in 四国における高校生の主な声

日時：令和7年3月10日（月）14：00～17：30

場所：グランヴィリオホテル徳島

### パネルディスカッション

（横石委員）自分の高校時代と比べて、今の高校生の様子を見ていると時代が変わったと実感。自分の高校時代はこういうことを考えることもなかった。時代の価値観の違いや変化、これを大人側もしっかりと捉えて価値観を共有しながらいろいろな事業を進めていきたい。高校生の活動がビジネスにつながっていくことがこれからの時代と感じた。

（あん委員）私が住んでいる下田市に来てもらいたい。あらゆる面で大感動、感銘を受けている。今を生きる姿のカッコよさを感じながら、皆さんが共通しているのは今の自分を大事にしながら、今の自分のコミュニティを大事にしながら、未来に向けて、未来を考えて、高校生でありながら次世代を考えているのが素晴らしい。かっこいい人間だなと思った。

### Q 地域活動を始めたきっかけは？

（吉野川高校）ワカメの廃棄部位の農業資材の開発に取り組んだのは、鳴門の海岸のクリーン活動に参加した際に、漁師さんからこういうことで困っていると相談をして頂いて、それから廃棄部位の活用を考え始めた。

（三本松高校）地域食堂の活動に参加したのは食に興味があった。自分たちがやる畑仕事やマルシェ活動が地域を明るくするのに役立つのは素晴らしいことと思った。普通科高校ではこういった活動ができないと思ったので、このプロジェクトに参加した。

（北宇和高校）姉が三間分校でライスバーガーの商品開発をしているのを見て、私も入って一緒にやりたいと思った。

（高知商業）ジビエ部の活動は7年前から始めているが、これは高知の野生鳥獣被害を探求学習で解決していく上で部活動につながった。

### Q 地域活動で苦労した点は？

（高知商業）毎年度新しく目標を定めて活動している。目標達成までに時間がかかり、それに対して焦りがでたこともあったが、継続することの大切さを気づけて、今ではじっくり時間をかけて活動することができている。

（北宇和高校）昨年度は、3年生6人、1年生が私1人だけの時があった。2年生になってどうしようかと悩んだが、全校生徒に魅力を伝えて、今では部員が1年生1人、2年生5人の6人になって助かっている。

(三本松高校) この活動はつながりの大切さを学ぶことができるのですが、そのつながることが大変。もともと自分一人でなんでもしてしまうという性格だったが、この活動をすることで、みんな協力することでタオル製作などの大きな成果につながることを学ぶことができた。

この活動は全校生徒、全職員が参加者であるが、この活動を広めて知ってもらい、食堂を利用してもらおうこと、この意識改革が大変で不十分なので頑張りたい。食堂で食べることで自分が参加なので、学校、そして地域と広げていきたい。

(吉野川高校) ワカメのことで困っていると相談を受けたが、私たちは農業科なのでそのアイデアをだすのに苦労した。

Q 行政に協力してもらいたいことはあるか？

(吉野川高校) 日頃から地域の方が困っていることをアンケートなどで取っていただき、それを開示してもらえたら、見えてくる視点があるのではないかと思う。

今後、活動をしていく中で、視点を広げていくことは大事だと思うので、今ではなくて未来を見て開示してもらえたらと思う。

(三本松高校) 地域の人や皆さんにお願いがあるのは、三本松高校の学食に食べに来て欲しい。地産地消の推進や孤食を減らすために、食べることでこの活動に参加してもらえるので、是非、美味しい定食を食べに来て欲しい。

(北宇和高校) 三間分校が作るライスバーガーを食べに来て頂きたいのと予土線に乗りに来てもらえれば三間町はもっと盛り上がる。

(高知商業) 地域と関わることが多い部活であるが、私たちがやりたいことを支援して頂いている。私たちが地域と関わる目的は地域の伝統文化を守り、地域を活性化したいこと。自分たちがやりたいことというのはもちろんだが、地域住民との方と方向性をそろえていければ活動もスムーズになるので、そこを行政の方にはつないで頂けたら。

(横石委員) 石破総理から楽しい国、日本とかお話されているが、皆さんは何が楽しいですか？

(吉野川高校) 同じ課題をみて、友達と熱くなって話をしたり、背中をおしてもらったりする時に楽しいなと感じる瞬間はある。

(三本松高校) 地域のイベントに参加するのが楽しい。中学校までは地域の人と関わることは0と全くなかったが、このプロジェクトに参加するようになってから、地域の人と関わる機会が増えて、自分からも話かけられるようになった。私が住んでいる東かがわ市で地域のイベントを盛り上げるためにやれるのがすごく楽しい。

(北宇和高校) イベントやマルシェの出店で地域の方に応援の言葉を頂いたり、大分県での交流会では小さい子が楽しそうに作ったり、ありがとうと言ってくれたりするとやり甲斐を感じる

し、楽しい。

(高知商業) 部員や地域住民と関わるのが楽しい。日曜市で地域住民の方と会話をしている中で、新しい発見や自分の将来の目標につながる発見があるなど新しいことを知れることは楽しい。

(あん委員) 楽しいことはすごく大事。下田市に住んでいて、地元の小学校や中学校に行くが、小学生はかわいく、自分の夢をどんどん話をしてくれる。中学校は明るい面、暗い面いろいろあるが、高校になると不安や恐怖など暗い面に包まれている印象。それと比べて今日の皆さんはモデルの高校。もし、不安に包まれている高校生にあったとしたらどういうアドバイスをするか？

(高知商業) 不安がある子がいたら一緒に活動しないと声をかける。一人だと不安だと思うので一緒に参加することで新しい発見や視点が見つかるかもしれないので、支えてあげたい。

(北宇和高校) 一回活動に誘う。私はやりたいことをしているので、その子もやりたいようにやってくれたらいいと思う。

(三本松高校) 困っている時は、他の人と話をする事で心が明るくなる。困ってそうであればまずは声を掛けてみる。やりたいことがあるのに足踏みしている状態なら、一緒に協力してやってみるなどして楽しさを感じてもらいたい。

(吉野川高校) 自分自身が一步踏み出すのが怖いという性格。ある作品からの引用になるが、「やる後悔、やらない後悔」とあるが、後悔は怖いし、失敗は怖い、やってみたいと思って立ち止まっている人がいたら、少しでも心を動かせるような未来のビジョンを見せてあげられるようにその子に向き合いながら解決策を見つける。言葉かけとその子が後悔しないように環境を作ってあげる。

(あん委員) 皆さん哲学者で、本日はたくさん学ばせてもらっている。

Q 地域活動に取り組んで自分自身が変わったことはあるか？

(吉野川高校)

- ・自分の中で変わったのは思い当たるところはないが、ものの考え方は変わったと思う。
- ・いろいろな人から意見をもらって、違う考えがあることを知れた。
- ・この活動をしたことによって視点は変わった。

(三本松高校)

・中学校までは地域を良くしたいという気持ちはあったが、具体的にどうすれば地域が良くなるのかは分からなかった。この活動をして、マルシェで出店すると地域の方から応援してもらえる。こういう活動が地域を明るくすると感じる事ができた。この地域活性化というのを具体的に知ることができたことは、今後の人生の中で、地域を良くしていこうと活動するのに貴重な経

験となった。

・高校に入ってこのプロジェクトに入って、地域の一員としての自覚が芽生え始めたのが大きな変化。これまではSDGsとか地域活性化とか聞いても、それは国や県や市がすることで私たちには関係ないと他人事のように考えていた。それは違くと、これからは私たちが主役となって地域を変えていく存在になると強く認識した。

#### (北宇和高校)

・私は中学校時代の同級生がみんなびっくりするくらい性格は変わった。中学校時代は全く話をせず、教室の隅っこにいるような感じだったので。

・中学から高校1年生までは地域活動に参加するまでは地域の人との関わりもなかったし、行動に移せていなかった。2年生になってこの活動に参加してからは地域の人はもちろん、他の高校生と関わる機会が多くて、自分の行っている活動だけではなくて、他の高校の活動を聞いたり見たりすることで、こういう問題があるということを知れたり、新たな視点に気づくことができるようになったのが大きな変化。

#### (高知商業)

・中学校は消極的な性格だったが、ジビエ部で活動することで、地域の人との関わりや部員と意見交換をすることで、新しい考えを知ることができたし、自分の意見も積極的に言いたいと思えるようになった。

・商業高校の生徒ということで日頃から地域の課題やビジネスチャンスなど知識を増やす機会は多くあったが、ジビエ部としての活動は珍しく、実践できる場があるのは授業の学びや検定を受ける向き合い方を変えるきっかけにつながった。

・商業高校ではコミュニケーション能力を重要視されていて、ジビエ部に入るまではなぜコミュニケーション能力が大事か分かっていなかった。販売活動の際に感謝される、これがコミュニケーションにつながっていて、この能力が成長したと感じる。

**Q** 最近の高校生はSNSなどのつながりが多く、対面でのコミュニケーションを取らないイメージだが、本日の高校生は地域の方とのふれあいを楽しいと感じている。これは地域活動参加が影響しているのか？

(高知商業) 運動部など他の高校生と比べると意識が違う。運動部などは高校生同士の横のつながりはあるが、ジビエ部のような大人との販売活動などが無いので、縦のつながりは無い点が違う。この活動をしていく中で、地域の方とつながりたいと思うようになった。

(北宇和高校) 私自身も地域活動をしているが、どの県や地域にいても地域活動をしている人を見るとすごいなと思う。自分たちで課題を見つけて、その課題に取り組んでいるのはすごいなと思う。

(三本松高校) 自分たちが特別という訳ではなくて、SNSを使っていると文面だけのコミュニケーションになるので、対面のコミュニケーションをする中で、相手が笑顔になったり、それいいねと褒めてくれたりすると嬉しい気持ちになるし。SNSが普及した現代だからこそ、この対面でのコミュニケーションが重要になってくると考えている。

(吉野川高校) コミュニケーションを取るのはすごく難しい。取ろうとしても通じないし、嫌だとも思うこともある。なんなら地域活動をすることで、直面してしまうことも多い。それをなんとかして乗り越えようと、どこがダメかを考える、次に会う時にはしないように取り組み、相手が不快にならなくなってコミュニケーションが成立するということがあった、それが成立した時やありがたうって言われた時に喜びが得られる。地域活動をしている人としていない人に違いはなくて、地域活動をする方がそういう場面に出会うことが多くて難しいことも多いが、その分、それを乗り越える回数も多くなって楽しいと思える。

Q 地域課題を高校生が解決するイメージはこれまで全くなかった。この地域課題は高校生ではなくて本当は大人がやった方が良いと思うことはないか？

(吉野川高校) 高校生ということで、できることが限られるから、大人がやった方が効率良いのではないかと思うことはある。だからといって、最低限、僕たちができることまでを大人の人にぶん投げてしまうことは、ただでさえ、大人はいろいろと忙しい中なので、少しでも僕たちの力で、解決への最低限の一步目、壁のハードルを下げるのであれば僕自身は全く苦ではない。

(三本松高校) 高校生だからできないというのではなくて、高校生だから出来ること、高校生でもできることはたくさんある。高校で地域活動をすることはとても良いこと。高校生は子どもでも大人でもない年代であるので、その高校生が地域について考えることで、大人になってからもそういった気持ちをもって仕事や活動ができるようになるので、そういった活動を高校生がすることはとても良いと思う。

(北宇和高校) 大人の方もすごい。今は高校生のやっていることが大きめに取り上げられたりすることがあると思う。ディスカバー農山漁村の宝で交流会に行った時に、他の高校の地域活動も素晴らしいと思ったが、大人の方も高校生ではできないような活動をしていて、高校生は高校生ができることを精一杯したらいいし、大人はその高校生がしたことをさらにつなげて行って欲しいなと思う。

(高知商業) 商業高校として地域の方と交流する機会も多い、地域課題を解決するのも学校として活発に行っている。大人の方から高校生と一緒にやりたいと頼ってくれる事もすごく嬉しいし、活動する中で大人の方と対等に話をしてもらって、自分たちで考えて、自分たちで実行するという機会をもらえることは、誰がやるべきというより、そういう機会をもらえるのが本当にありがたい。そういう機会が高校生にあるということはすごく大事なことです。

(あん委員) 高校生というより、先生に聞きたい。私も教育現場にいて、学生の夢を支えるのにどうするかを戸惑うこともある。素敵な若者を支援しながら、教員として意識していることを聞きたい。

(高知商業) 子どもたちに3つの力をつけさせたいと活動している。1つは自分の勉強した知識

を社会で活用する。今まで学力中心の社会であまりそういう機会はなかった。これが新しい教育の基礎学力という新しい学力。

もう一つは、自分が勉強したことや新しいことにチャレンジして、新しい価値を創造できる人間になってもらいたい。

最後は自分の生まれ育った地域や社会に対して、自分の想いを馳せて、自分の行動力で未来につなげていく力。

地域の支援をしていく中で、日々、生徒と一緒に成長させてもらっている。今日話を聞いて7年間続けてきて良かったと思っている。ここにいる生徒の皆さんはリーディングスチューデントとなっていくと思う。

**(北宇和高校)** 本校生徒は19名と少ないので、一人一人の役割や活躍するチャンスをあげるということを心掛けています。中学までは活躍することがなかった生徒が、本日のように登壇して発表している。

**(吉野川高校)** 吉野川高校は専門高校であり、多くの生徒を見送ってきた。自分が、大人になって働きはじめた時に同級生がいなかった。身近にいる大人は師匠になる。その身近な大人に対して、生徒がリアクションできるようにしたいと思っている。そのためには地域に出向いて、いろいろな産業に触れて、仕事に出会って、自分が何をするのかを選択して欲しい。しばらく一生懸命働いて、30歳くらいになって余裕ができた時に、またどこかで振り返って欲しいと思う。生徒は種であり、私はその種を育てる土になりたいと思って教員をしている。

**(三本松高校)** 教員の多忙化が進んでおり、元教員のような外からの支援に委ねることを実験的に行っている。生徒が安心してやれる場所と機会、チャンスを作り、ステージを準備する、その中で何が出来るかを生徒自ら考えて、自分たちで一步進んでくれるので、そこを軽く後押しするぐらい。

思った以上に、いざ、そういう場があれば高校生は力もあるし、意欲もある。その場を作ってあげて、将来につながっていけばと思っている。

**(あん委員)** 大学というより高齢化・少子化の田舎において、我々は自分のコミュニティにどう貢献していけばいいのかが大きな課題。本日は大変勉強になった。

**(横石委員)** 高校生の話を聞いていて、会社の求める人材としてコミュニケーション能力。今の時代で難しいのはコミュニケーションがうまくいなくて退職することがものすごく多い。話を聞いていて、地域の人と触れ合えること、一つのことに取り組むことが大事なんだと改めて思った。今やっていることが楽しいと皆さんの前でいえることが将来、地域の力になるとすごいと思った。ビジネスになるとまだ大変なことはあるが、コミュニケーション能力はこうして作られると感じた。

(以上)